

様式第 2 号 (第 3 条関係)

行政視察等報告書

平成 27 年 7 月 24 日

米子市議会議長様

会派名 信風
代表者氏名 伊藤ひろえ
提出者氏名 安達卓是



下記のとおり報告します。

記

Table with 2 columns: Item (項目) and Details. Rows include: 1. Project (項目) with checkboxes for 'On-site survey', 'Administrative inspection', 'Request/Petition activity', 'Participation in training conference', and 'Participation in meeting'. 2. Participant (参加者): 安達卓是. 3. Date (期日): 平成 27 年 7 月 13 日から平成 27 年 7 月 14 日まで. 4. Summary (概要): (年月日・場所・内容) 地方議員研究会「人口減少時代における地域再生 in 東京」. 7月13日: ・消滅可能性都市への対応, ・シティセールス、シティプロモーションの潮流. 7月14日: ・選ばれる自治体の条件, ・正しい政策研究と自治体創生. 5. Remarks (所感): 別紙のとおり. 6. Expenses (経費): 旅費合計 113,528 円.

別紙

地方議員研究会 <人口減少時代における地域再生 in 東京>

講師 牧瀬 稔さん 一般財団法人地域開発研究所上席主任研究員

全講座(1講～4講)の講義(法政大学大学院公共政策研究科兼任講師)

◎第1講 拡大都市と縮小都市・多様な人口～定住人口や交流人口等・人口減少社会を勝抜くヒント

(1) 7月13日(月) 10:00～12:30

(2) 所感

人口減少時代の中の政策づくりを視点に置き、今日、多くの自治体が人口の維持(増加)、減速で速度を落とすことを前提とした政策展開を進めている。現時点では、自治体の責務として、人口の維持(増加)があるかもしれない。米子市は、これからの時代その用意は出来ているでしょうかという問いがあった。例えば人口が大幅に減少しなくても高齢者が増加していくという認識を持つことが重要である。問題提起として、タックスペイヤーとタックスイーターの増減、労働人口と老年人口の増減率などの指摘。また、人口減少幅を遅らせることも大事であるという。

地方創生は、地方自治体から「地方政府」へという気概を持ち、変貌を求められる取組みでもあるという指摘。

◎第2講 失敗しないシティセールス、シティプロモーション、地域資源の活用と地域創生への視点

(1) 7月13日(月) 14:00～16:30

(2) 所感

①シティプロモーションとは何か、②シティプロモーションの基本的視点、③活発化するシティプロモーション、④シティプロモーションを成功させるために、などの視点を正確に捉えること。自治体政策の流行(はや)り廃りの波に呑み込まれないことが肝要である。達成したい政策項目の中に認知度拡大(自治体名向上)、情報交流人口増加、定住人口獲得、シビックプライド醸成、協働人口拡大、企業誘致進展などのポイントを正確に捉える。自治体の中には、「少子高齢化の進展や人口減少などの社会情勢に対応するためシティプロモーションを推進します」や「地域の魅力発信を進めシティプロモーションを実現します」などが目的化しているという指摘があった。

①一点突破、②長期的な取り組み、③全員参加、④ターゲットの明確化、⑤ウォンツの把握など発想の時点では、加算ではなく「×」(乗ずる)ことが大事であり新しい展開が創出される可能性を見出すことの指摘があった。

◎第3講 選ばれる自治体の条件

(1) 7月14日(火) 10:00～12:30

(2) 所感

この講義の視点は、①人口減少に対応する視点、②自治体シンクタンクの紹介、③シティプロモーションの潮流、④地方人口ビジョンと地方版総合戦略を「戦略」的に考えること。

外へ打ち出す原動力に「高齢社会」、「少子化」、「地方分権」、「新たな公」、「財政危機」、「ニーズの多様化・多発化」などの視座でもって自治体の外的要因として捉える。『手段』と『目的』

をはき違えずに達成したい政策項目を挙げて絞り込むことが重要であるという指摘。

参加した一議員として、受け止められたことは、人口減少に対応するには「住民の創造」という意識が大切であり、絞り込むことが大事である。それが戦略となる。政策をつくっただけではダメで営業活動が重要である。地方人口ビジョンと地方版総合戦略は割り切って考えた方がいいかもしれない。しかし、地方創生はじっくりと考えていく必要がある。小さな危機に気が着かないと気が着いたらゴーストタウンになっちゃうかもという指摘であった。何よりもまずは住民の福祉の増進を基本とすることの指摘があり、それを正確に捉えていくが大切であると感じた。

◎第4講 正しい政策研究と自治体創生

(1)7月14日(火) 14:00~16:30

(2)所感

ここでの講義の主なポイントは、①政策研究の視点、②政策づくりの注意点、③事業提案のヒント、④税外収入という観点、⑤安全・安心に構築などであった。政策に求められることは、方向と対応を実現・問題解決するためには具体的な複数の手段を提示することの指摘があった。政策形成の確立・向上には、複眼思考が大切である。原点は、「住民の福祉の増進」である。政策を体系化して捉えること。クラウドファンディングの類型を正しく理解し、支援者へのノリターンを考えることである。アブラハム・マズローの5段階欲求説を用いて政策実現への導きの指摘を聞くことが出来た。

座学であったが、さまざまな指摘事項については、個人個人への質問や数回のグループ討議をまじえて研修であり、この地方議員研修会で今後米子市の政策立案と政策展開の実践のヒントを聞くことが出来た。四講座全体を通して、受講中に質疑応答の時間が少なく参加した全国の市議会議員の意気込みを聞くことに物足りなさはあったが、新しい行政運営・展開のための発想・手法の選択肢を学習することが出来て有意義であった。